2024 ズバリ！的中 世界史

関西学院大学

周、春秋時代に関する問題で、誤文を判別する問題の内容がズバリ的中

入試問題

2月3日実施　学部個別日程（傾斜配点型）
〔Ⅳ〕③④

〔Ⅳ〕次の文中の［　　］に最も適当な語を語群から選び、また下線部に関する問いに答え、最も適当な記号１つをマークしなさい。

人類の歴史上、青銅加工技術の確立は、都市の形成・文字の発明とともに文明化の指標のひとつとされる。中国では青銅製品は紀元前２千年紀、黄河中流域で出現し始める。河南省二里頭の神殿遺跡や①殷中期のものとされる二里岡の巨大都城遺跡からは少数の青銅製の祭器が出土している。これらは祭儀を執り行う王の威信材として、その権威を高めるために欠かせないものであった。同じ頃、②長江流域にも二里岡都城と似た文化様式を持つ小規模な都市が出現する。これは近傍の銅山採掘のために黄河流域の王権が築いた植民都市と考えられており、それらを介して黄河流域の青銅器文明が南方にも広まり始めた。現在の［　イ　］に都を置いた殷後期になると、精緻を極めた多様な青銅祭器や武器がつくられ、中国古代の青銅器文明の最盛期を迎えた。

続く③周代にも引き続き多くの青銅祭器がつくられ、なかでも儀礼制度の確立にともない鐘などの楽器類が発達を見た。④春秋時代に入ると、青銅器からは重厚神秘な風格が薄れ、宴会など実生活で用いられる華美な様式の器が見られるようになる。⑤戦国時代には地方ごとに個性のある様々な様式の青銅器が新技法でつくられるようになった。こうした各地の青銅器文化の繁栄は秦の始皇帝の統一によって終わりを迎えるが、始皇帝陵の兵馬俑坑からは精緻な青銅製車馬模型が発見されている。［　ロ　］の乱を機に秦が滅亡した後、中国を再統一した⑥漢の時代にも前代の様式をつぐ青銅祭器や装飾具が都や各地の諸侯王国のもとでつくられたが、その数や種類を大きく減じた。中国青銅器時代は終焉の時を迎えたのである。

③周に関する記述として、誤りを含むものはどれか。
- a．鎬京に都を置いた。
- b．諸侯の家臣に封土が与えられた。
- c．宗法によって親族関係の秩序が定められた。
- d．匈奴に攻められて都を洛邑に移した。

④春秋時代に関する記述として、誤りを含むものはどれか。
- a．斉の桓公などの有力諸侯が覇者として諸侯を従えた。
- b．周王を尊び異民族を退ける尊王攘夷が唱えられた。
- c．孔子は魯の年代記『春秋』を編纂したとされる。
- d．晋が韓・魏・燕に三分して、春秋時代は終わった。

河合塾

夏期講習
関関同立大世界史
第3講　Ⅰ　A　②③

Ⅰ　A　次の文中の下線部に関する問いに答えなさい。

1876年，公使館書記官として清国に赴任した竹添進一郎は，友人とともに北京より四川までの旅に出，道中，漢学者として親しんだ中国の歴史舞台とその現実の姿を，詳細な日記にしたためた。この『桟雲峡雨日記』は，近代日本人の手になる初の本格的な中国見聞記である。北京から西南に向かった彼は，石家荘付近では枯れた河床を見て①夏王朝以来の水利と治水を論ずる。地勢に応じた井田の法が行われた②周の世から，③春秋をへて④戦国に入ると土地区画整備が農地の荒廃をもたらしたという。また⑤王莽の故郷や⑥光武帝即位の地を通り，河南省安陽では，古来そこが⑦殷の故都とされることを記す。まだ同地で甲骨文字が発見される前のことである。⑧孔子の弟子の故郷を通り過ぎ，衛水を渡っては⑨秦から清までの首都の移動と水運の変遷を通観する。ついで洛陽から西安をへて南へと山中の険路を越え，⑩三国蜀のゆかりの地である四川に出た一行は，長江を下って上海で４カ月にわたる長旅を終えた。彼の旅行記は優れた文明史論でもあり，漢籍に描かれた中国の歴史文化と，現実の中国社会との対照に触発されたものであった。またそれは，前近代に書籍を通じて中国文化を敬仰してきた日本が，近代に入って大きく対中認識を改めていく転換点に位置するものでもあった。

② 周に関する記述として，誤りを含むものはどれか。
- a．武王が殷の紂王を放伐して成立した。
- b．王や諸侯につかえる卿，大夫，士などの家臣にも領地が与えられた。
- c．羌に鎬京を攻略され，都を洛邑に移した。
- d．周王は，天命を受けた天子を称した。

③ 春秋時代に関する記述として，誤りを含むものはどれか。
- a．『春秋』は春秋時代の魯の年代記である。
- b．有力諸侯が覇者として，「尊王攘夷」を唱えた。
- c．春秋時代末期までに，鉄製農具の使用が始まった。
- d．斉が韓・魏・趙の三国に分かれて春秋時代は終わった。